

●第 38 回地盤震動シンポジウム●

短周期地震動の発生要因はどこまで解明されたか

—— 広帯域の入力地震動予測に向けて ——

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

短周期地震動の発生要因を理解し、予測精度の向上を図ることは、建築構造物の大多数を占める中低層構造物の耐震安全性や設備・機能の継続性の観点から、地震工学上の最重要課題である。近年、震源近傍も含む観測記録の蓄積や、地下構造調査結果の全国規模のデータベース化など、短周期地震動を理解する条件が整いつつある。以上の背景のもと、震源・伝播・地盤の各要素がどの程度解明されたかを系統的に整理し、現時点の知見を共有すると共に、課題を明らかにする機会を設けることが必要と考えた。本シンポジウムでは、まず観測記録の分析から得られる短周期地震動研究の最新動向を紹介し、それを反映して現状における震源と地下構造のモデル化の到達点と課題を示す。最後に、長周期帯域も含む広帯域の入力地震動予測に向けて、今後取り組むべき方向性を研究者と実務者を交えて議論する。

日 時 : 2010 年 12 月 3 日 (金) 10:00～17:10

会 場 : 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

内 容

【午前の部】

司会: 大野 晋 (東北大学)・永野正行 (東京理科大学)

1 主旨説明 10:00～10:15 : 加藤研一 (小委員会主査/小堀鐸二研究所)

2 観測記録に基づく短周期地震動研究の最新動向 10:15～11:55

2-1 強震観測記録に基づく短周期レベルと破壊伝播効果に関する研究

: 佐藤智美 (清水建設)

2-2 震源における短周期地震波エネルギーの励起

: 中原 恒 (東北大学)

2-3 伝播経路の 3 次元減衰構造と強震動

: 中村亮一 (東電設計)

2-4 堆積地盤における短周期地震動の波動伝播・増幅特性

: 植竹富一 (東京電力)

【午後の部】

司会: 松島信一 (京都大学)・神野達夫 (広島大学)

3 特別講演「研究の原点は気象庁：震度とマグニチュードへのこだわり」13:00～14:00

: 武村雅之 (小堀鐸二研究所)

4 短周期地震動予測のための震源と地下構造のモデル化 14:00～16:15 [休憩 14:50～15:00]

4-1 震源における短周期地震動生成のモデル化

: 岩田知孝 (京都大学)

4-2 伝播経路のランダム性の短周期地震動への影響

: 佐藤吉之 (竹中工務店)

4-3 地盤構造の不均質性のモデル化と短周期地盤増幅に及ぼす影響

: 佐藤浩章 (電力中央研究所)

4-4 不整形地盤に起因する短周期地震動の空間変動

: 上林宏敏 (京都大学)

4-5 広帯域地震動を考える上での短周期地震動評価法の課題

: 野畑有秀 (小委員会幹事/大林組)

5 総合討論「広帯域の入力地震動予測に向けて」 16:15～17:00

司会: 高井伸雄 (北海道大学)・境 有紀 (筑波大学)

6 まとめ 17:00～17:10

: 山中浩明 (小委員会幹事/東京工業大学)

記録: 保井美敏 (戸田建設)

定 員 : 200 名 (当日会場先着順)

参加費 : 会員 5,000 円、登録メンバー 5,500 円、会員外 6,000 円、学生 3,000 円

* 資料代 3,000 円含む

問合せ : 事務局研究事業グループ 伏見